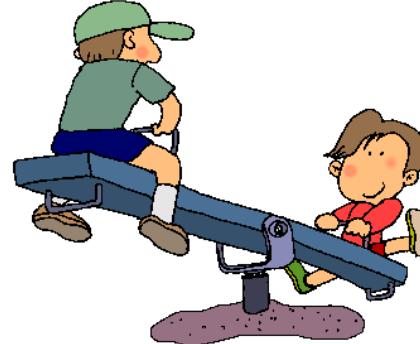


事例研究Ⅱ 本部開催



このスパンは、事例研究にかかる発展的内容として位置付く事例研究2です。

保育現場で出会う子ども支援や保護者支援での具体的な事例をモデルにして支援計画や支援方法について考えていきます。



保育心理士会代表
大分こども発達支援研究所所長
牧野桂一



今回の事例提供者

- 1⑥×向一博・集団活動に抵抗(DD)
- 2⑯×田口有紀・愛着形成不全(DD)
- 3⑬×中村栄梨奈・思い通りにしたがる
- 4②×阿南友香 不貞腐れて泣く
- 5①○安東侑希・言葉の遅れ・療育
- 6⑦×高野喜美 友達と遊ぶべないい
- 8⑳×矢上愛・集団の活動の難しさ
- 8⑲△本村優紀・21トリソミー
・ウエスト症候群
- 9⑨○小野 梓・発達の遅れ

- 10⑯△田島千春・発達障害・保護者支援
- 11⑰×武井夕夏・情緒障害・保護者支援
- 12⑱○堀江百香・発達の遅れ(DD)・言葉・療育
- 13③○湯山 茉奈美・発達障害・保護者支援
- 14④×牛島由美・こだわり、衝動性(DD)・吃音
- 15⑤△古川 葉・友だちとの関わり(ASD)
- 16⑪△相場 玲奈・発達障害・保護者支援
- 17⑫△大山佳厘・おちつきがない(ADHD)
- 18⑧○小田島実和・日常生活不全マイペース
- 19⑭×碇あゆみ・コミュニケーション障害
- 20⑩○小林三恵・発達障害・療育

今回の事例提供者

- ①○安東侑希 ・言葉の遅れ・療育
- ②×阿南友香 不貞腐れて泣く
- ③○湯山茉奈美 ・発達障害・保護者支援
- ④×牛島由美 ・こだわり、衝動性・吃音
- ⑤△古川 楓 ・友だちとの関わり(ASD)
- ⑥×向一博 ・集団活動に抵抗(DD)
- ⑦×高野喜美 友達と遊ぶべないい
- ⑧○小田島実和 ・日常生活不全
- ⑨○小野 梓・発達の遅れ
- ⑩○小林三恵 ・発達障害・療育
- ⑪△相場 玲奈 ・発達障害 ・保護者支援
- ⑫△大山佳厘 ・落ち着きがない(ADHD)
- ⑬×中村栄梨奈・思い通りにしたがる
- ⑭×碇あゆみ・コミュニケーション障害
- ⑮×田口有紀・愛着形成不全(DD)
- ⑯△田島千春 ・発達障害・保護者支援
- ⑰×武井夕夏 ・情緒障害・保護者支援
- ⑱○堀江百香・発達の遅れ(DD)・言葉・療育
- ⑲△本村優紀・21トリソミー
・ウエスト症候群
- ⑳×矢上愛・集団の活動の難しさ

本日の事例提供

- ①〇安東 侑希 • 言葉の遅れ・療育
- ③〇潟山 茉奈美 • 発達障害・保護者支援
- ⑧〇小田 島実和 • 発達障害・日常生活不全マイペース
- ⑨〇小野 梓 • 発達の遅れ
- ⑩〇小林 三恵 • 発達障害・療育
- ⑯〇堀江 百香 • 発達の遅れ(DD)・言葉・療育(ST)

事例1 安東 侑希

① 子どもの概要 N・A 男 4歳6ヶ月 在園年数4年 「言葉の遅れ」 療育

円城寺式・**暦年齢4歳6ヶ月**・言語理解:4歳・発語:2歳9ヶ月・対人関係:2歳6ヶ月

・**基本的習慣:3歳・手の運動:3歳・移動運動:2歳9ヶ月**

② 主訴

「**言葉の遅れ**」・楽しく遊びたい・何で怒られているかわからない

③ 園での様子

<これまでの保育方針と入園後の変化>

- ・1歳:好奇心や自分からやりたい気持ちが育つよう色々な経験していく。
- ・2歳:遊びが発展できるよう関わる。自己主張を十分に受け止め、応答的に関わる。
- ・3歳:**友達と関わる中で自分の気持ちを少しずつ伝えることができていた。**

<援助目標> 言葉でのやり取りができるようになる

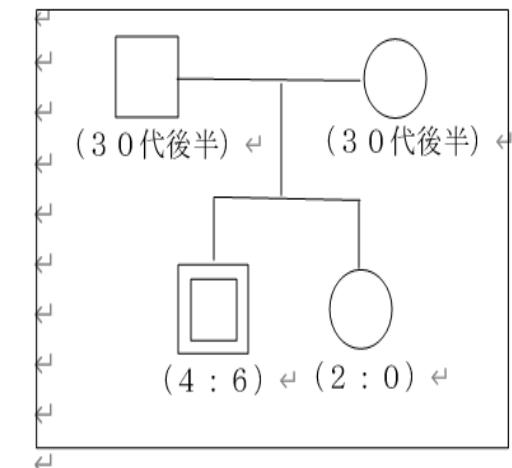
<援助方法> 集団遊びや個別活動を通じてお友達や職員と関わる時間を作る。**気持ちの伝え方に**ついては「こんな時はこう言うんだよ」と具体的に伝え、自信を持って相手に伝えることができるように支援する。

④ 今の課題

<子どもの課題>・お友達と遊びながら、集団でのルールを身につける。・**ことばをたくさん覚え、相手に気持ちを伝えることができる。**

<保護者の課題>・本児に寄り添いながらも、言葉でしっかり伝えていく。

家族関係

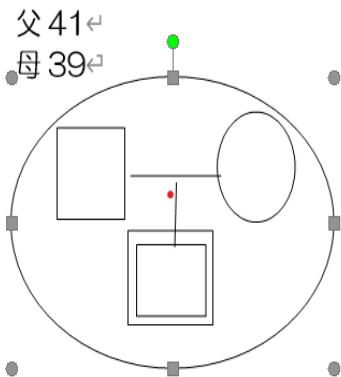


父:公務員

母:美容師

送迎:母

事例3 潟山 茉奈美



①子どもの概要 K・K 男 3歳11か月 在園年数 6ヶ月 発達障害(ASD) 療育(ST・OT)

○発達検査 円城寺式 **暦年齢3:8** 移動年齢3:9 手の運動3:6 基本的習慣3:6

対人関係2:2 発語3:9 言語理解3:6

②主訴 ・ごはんの時に離席する。・指示のとき一つ一つ声掛けが必要。・姿勢保持が難しい。

・片付けが出来ない。・物の管理が苦手。・マイワールドが強い。

③ 園での様子

<これまでの保育方針と入園後の変化> **全体指示は通らないため、個別に声をかける。気になるとそちらの方へ行くことが多く、何度も声かけが必要。身支度などのルーティンが入りづらく、毎回準備の声かけが必要。**

- ・**<援助目標>** 目の前のこと集中することができる
- ・**<援助方法>** **るべきことを視覚的に伝える。指示を簡潔に短く1つずつ伝える。今からすることを尋ね確認を行う。時間に余裕がある場合は、自分でできるように見守る。棚や目的地に目印をつける。**
- ・**<子どもの課題>** **気が散ってしまう。注意散漫な姿がある。すぐにあきらめる姿がある。**
- ・**<保護者の課題>** 保護者に様子を伝える際は、エピソードを具体的に伝える。本児に伝える際は、**具体的で簡潔に伝えるようにする。また、視覚的に伝える。**

事例8 小田島 実和

① 子どもの概要 T 女 3歳9ヶ月 在園2年10ヶ月 「発達障害」

○発達と検査・デンバー式発達検査発達・正常

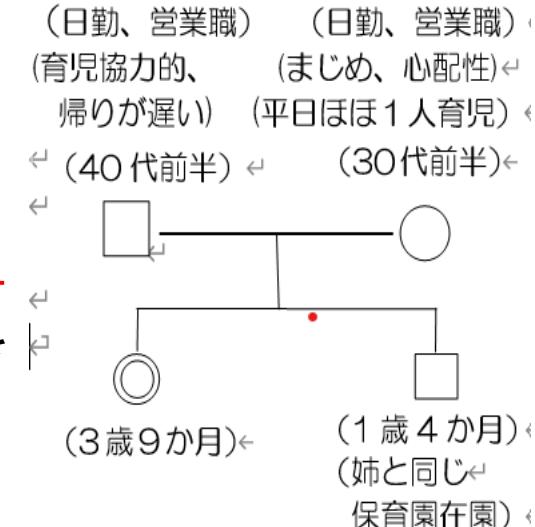
② 主訴 「発達障害(ASD・ADHD) 不安や不快に対して弱くパニックに陥る。他者への関心が薄く、周りの状況を気にせず過ごす。興味が次々移り、歩き回る。好きな遊びは集中し、中断を嫌がる。偏食がある。嫌いな事や苦手な事があると大声で泣き叫んで癇癪を起こす。音に敏感である。

③ 園での様子 ・課題: ・不安や不快に対して弱くパニックに陥る。・マイペースで、集団から離れる。・活動を切り替えたり気持ちを切り替えたり事ができない。・偏食が強く、十分な量食べる事ができない。トイレを嫌がり、排泄訓練ができるない。

・対応: ・安心して遊べる環境を設定する。集団から離れても無理に戻さず、安全に留意し見守る。人との関わるよう友達と関わって遊ぶ。・活動を見通せる様に砂時計を使って、次の活動へ期待がもてる言葉かけをする。・食の楽しさ、おいしさを感じながら自分で食べることができる様に、野菜を育て収穫したり、食育視聴覚教材を使った指導を行ったりする。盛り付けを工夫する。励ましや歌に合わせて介助されると喜んで食べることもある。・興味に寄り添い、共感的に言葉かけをもつ

・ 変化: ・嫌な事や不快に感じた事を簡単な言葉で話し、癇癪が少なくなった。

④ 今の課題: ・自分でスプーンをもって様々な食べ物をおいしく楽しく食べる。・不快や不安な気持ちを自分で切り替える。



※両親共に子育てに一生懸命。
勤務時間の都合で、平日は母
親中心の育児。←
※父方、母方祖父母は、遠方住
住の為、育児協力できない。←

事例9 小野 梓

①子どもの概要 K.S 男 3歳7か月 在園年数 6か月 発達の遅れ

3,6か月健診では全てにおいて発達の遅れがあり、全体的に2,5歳の発達と診断。

遠城寺では2歳5か月。支援指數72

②主訴 発達の遅れ

- ・健診では部屋から飛び出したり、母を蹴ったり叩いたりする。母親は、本児にどのようにかかわればいいのか分からず、困っている。

③園での様子

<これまでの保育方針と入園後の変化>特定の保育者が朝の受け入れや遊びで側にいるようにし、その中で興味関心のあるものを見つけその中で、特定の保育者が朝玄関で迎え入れると、今まで泣いて暴れていたのが、「先生、おはよう」というようになり、母親ともスムーズに離れるようになった。また、室内に本児の好きなものを集めた個室を作ると、その部屋には入るようになる。

<援助目標>・午前中、本児が安定して遊べるようにする。

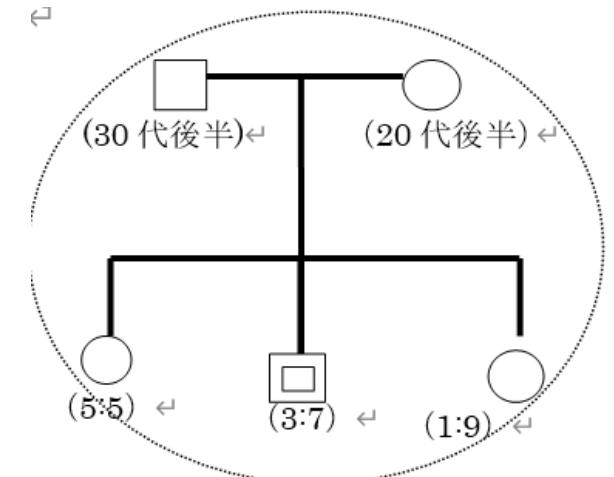
<援助方法>・「ママがいい」と思う暇もないような保育の展開をクラス全体で行う

- ・④ 今の課題

- ・安心できる場所を作ること。

- ・どのように接してあげれば安心して生活を送ることができるか。

- ・「ママがいい」となった際の落ち着かせ方。



父親の職業：看護師で夜勤あり。送迎も都合がつけは父もする。

母親の職業：入園当初は、1号認定で入るが6月頃より家庭の事情の為週3の2~4時間パートで働くようになる。

母親の実家は県外(福岡)で父親の実家は本児のすぐ近くにあるようだが、母は義両親に頼りたくない。パートに出てる間だけ、下の子を見てもらっている。

父親が、結婚当初から、母親への暴言があり、本児の目の前で母が父に罵られている所を見ていることもある。

事例10 小林三恵

① 子どもの概要 S.K 男 4歳1か月 在園年数 5か月

<検査等> 1歳半健診:言語障害(SD) 3歳2か月の時1年前後の遅れ。

② 主訴 発達障害(ADHD・ASD)

感覚が過敏であり大きい音に敏感である。・衝動性があり部屋を飛び出す。他児に手が出る。・偏食がある。・場面の切り替えが苦手。

③ 園での様子

・<援助目標> <援助方法>

・大人に見守られながら身の回りのことを自分でしようとする。(3歳児1期)

・大人の援助のもと自分の気持ちと葛藤しながら折り合いをつけようとする。(2歳7か月
2歳11か月)

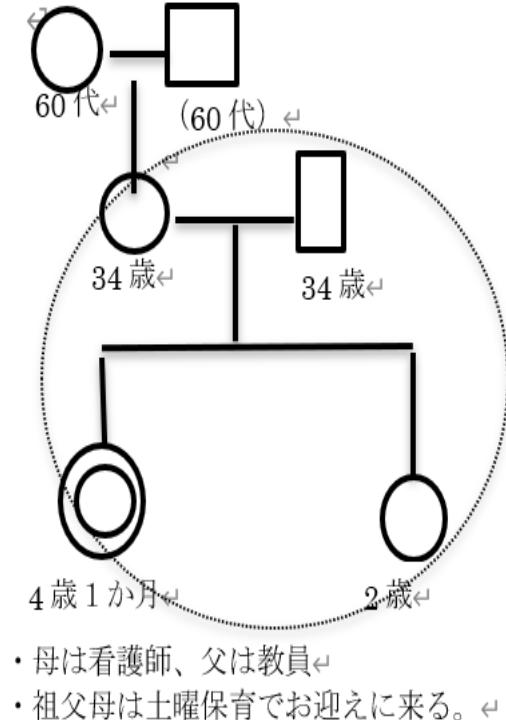
・やりたい行動がある時には、どこに何のために行きたいのかを保育者に伝えられるよ
うに、具体的に答えられるように声掛けをする。

・「走りたい」という要求があった時は、保育者が付き添い、廊下に行き遊びたい欲求を
満たせるように関わっている

・他児とのやりとりでは、保育者が仲介し、「貸して」「使ったかったね」等、本児の気持
ちを代弁し、繰り返し伝えていく。本児と他児が怪我のないよう、常に本児の姿は視界
に入れ、すぐに対応できるようにしている。

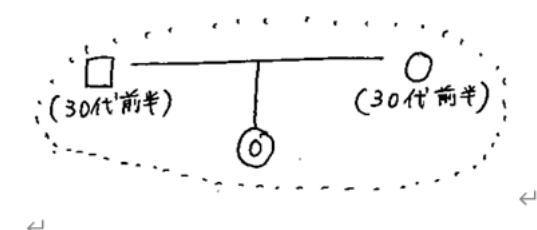
④ 今の課題

・行動する前に言葉で伝えることがまだ難しい。簡単な言葉でも伝えられるように関わ
る。



- ・母は看護師、父は教員
- ・祖父母は土曜保育でお迎えに来る。

事例18 堀江 百香



① 子どもの概要 S女 4歳2か月 在園 3年 言語の遅れ 年少児から療育へ
<検査等> 発達年齢 4:8 ※全体的遅れなし・ギフテッド?

② 主訴 ・場面や状況に応じて行動することや、悲言語の読みとりが難しく、人間関係でトラブルに発展する・注意力の散漫、物事を順序立てて行動することの難しさが。・保護者支援

③ 園での様子

<援助目標>

- ・本児なりのペースで、最後まで荷物の整理や片付けを行う。
- ・周囲の状況や場面に合わせた行動に意識を向けるとする。

<援助方法>

・端的な言葉でつたえていくと共に、スマールステップでできた際に沢山ほめ次のやりがいや自信に繋げる。

・周囲の視野が狭くなっている際は、状況、周りの行動を伝え、どうすれば良いか問い合わせていく。

④ 今の課題

その時の気分ですぐに取り組む時や、ボーっとして中々取り組めない時があるが、本児のペースで最後まで行えている。

・父：会社勤務。母の育児、仕事家事等の心理的負担から週末は本児を連れて実家にお泊りしている。

・母：会社勤務。パート。「育児きつい」「毎日がきつい」と日々言われ、情緒の波も感じられる。父への不満もあるようで、家庭内別居で「必要以外関わらない」との話を言われていた。

付録：今回の事例に関する資料

- ・発達障害について
- ・知的障害について
- ・自閉スペクトラム症※自閉スペクトラム症のチェックリスト
- ・配慮の必要な子どもの支援の方法
- ・注意欠陥多動性障害
- ・知的障害・自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害のチェックリスト

発達障害について

発達障害児とは

○知的な発達に遅れはないが
学習や行動に障害が見られる子ども

中枢神経系の機能障害

学習障害

基本的には、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態をさすものである。

注意欠如多動症

年齢あるいは発達に不釣合いな注意力、及び衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

自閉スペクトラム症

3歳位までに現れ、
①他人との社会的関係の形成の困難さ
②言葉の発達の遅れ
③興味や关心が狭く、特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である。

知的障害

知的障害は、最新の「精神疾患の診断・統計マニュアル 第5版(DSM-5)」では、「知的能力障害(知的発達症)」とも表記されています。知的機能や適応機能に基づいて判断され、重症度により軽度、中等度、重度、最重度に分類されます。様々な中枢神経系疾患が原因となるため、正しい診断を受けて、早期に治療・療育・教育を行う必要があります。

知的障害というのは、知的発達面に遅れがあって、通常の生活を行なう上での適応行動に障害がある状態をいうといふようにいわれています。知的障害のという障害については、その特性をとらえるために中枢神経系の器質的障害の面と知的機能の障害の面(知能指数が70~75またはそれ以下)、社会生活におけるハンディキャップの面からみることというのが一般的です。

器質的障害の状態については、医師の医学的診断によって明らかにされます。

知的機能面については、心理学的・教育的診断によって明らかにされます。具体的には、知能や学力の遅れの有無などで、学齢期に入ると大きな問題となってきます。また、知的機能面の遅れは、心理的、社会的環境要因などの非器質的要因からも生じることがあります。社会生活におけるハンディキャップの面については、社会生活をする上での困難性として捉えられ、幼児期や学齢期より、学校卒業後の社会生活において問題となることがあります。この社会生活におけるハンディキャップは、周囲の教育的条件や社会的条件によって大きく左右されます。

知的障害について以前は「精神薄弱」という用語が長い間使用されていましたが、「精神薄弱」という言葉が障害の実体を表す言葉として誤解を与え好ましくない障害観を表すというような理由から、1999年4月より「知的障害」というように改められました。

知的障害

アメリカ精神医学会 DSM-IV 「精神疾患の分類と診断の手引き」

Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (診断統計マニュアル第4版)

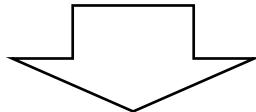
精神遅滞 (Mental Retardation)

軽度IQ50-55～70

重度IQ20-25～35-40

中等度IQ35-40～50-55

最重度IQ20-25以下



「DSN-5では、知的障害はおおむね/Q70未満の基準 자체は変わらないが、重度評価の指標として、生活適応能力が重視され、単に知能指数での分類ではなくなった。それらはおもに学力領域、おもに社会性領域、おもに生活自立能力領域に関して、それぞれ具体的な状況から重症度の判定を行う形に変化する」(臨床家のためのDSM-5虎の巻:杉山登志郎他)

療育手帳

○県K県に見る療育手帳に関する規則

知的障害者(知的障害児を含む)に対する援助、相談その他の措置の円滑な実施を図り、もって知的障害者の福祉の増進に資することを目的とする。

知的障害の程度	内容
最重度(A1)	一 基本的生活習慣が未形成のため、常時すべての面で介助が必要 二 多動、自他傷、拒食等の行動が顕著であるため常時の付添い監護が必要 三 身体的健康に厳重な看護が必要 四 知能指数がおおむね二十以下
重度(A2)	一 基本的生活習慣が未形成のため、常時多くの面で介助が必要 二 多動、自閉等の行動があり、常時の監護が必要 三 身体的健康に常時の注意及び看護が必要 四 知能指数がおおむね三十五以下 五 知能指数が五十以下で、身体障害者福祉法(昭和二十四年法律第二百八十三号)に基づく障害の等級が三級以上に該当
中度(B1)	一 基本的生活習慣の形成が不十分なため、一部介助が必要 二 行動面での問題に対する注意又は指導が必要 三 発作又は周期的精神変調がある等のため、一時的な看護が必要 四 知能指数がおおむね五十以下
その他(B2)	最重度、重度及び中度以外の知的障害者であって、知能指数がおおむね七十以下

①発達チェックシートによるチェック

発達の全体像をとらえるためのチェックリスト			
名前	年齢	クラス	生年月日 年 月 日生
後者			タケツク 東洋学
			年 月 日 歳 ヶ月
			Ⅰ期 年 月 日 歳 ヶ月
			Ⅱ期 年 月 日 歳 ヶ月
			Ⅲ期 年 月 日 歳 ヶ月
			Ⅳ期 年 月 日 歳 ヶ月
			ひらがなこの本を完全に 簡単な足し算ができる
			時計の針を止して読む
			トランプの神経衰弱を する
			喜い、喜ぶ等がわかる 音楽を聴く
7:06		片足で30秒立つ 寝つきで足を床の下に 潜ませる	ピアノを好きなように 運転を使って手形をいを ひく
7:03		ひとりで跳ねりをする 片足で10秒立つ 立ってブランコをこぐ スキップができる	ひもを締結する 手ぬぐいや襦袢を脱ぐ 片足で10秒立つ タオルや襦袢を脱ぐ ブランコに立ち乗りして 立てば
6:06		人形囃（6部分）	ひじりで外の支度が 完全にできる
6:03			手ぬぐいや襦袢を脱ぐ 手ぬぐいのゲーム 縄跳びを続ける
5:06		立って飛行機をこぐ 飛行機の飛はし方を 体をタオルで拭く	トランプのはさみ抜きが できる
5:00			ひらがなこの本を読む 手ぬぐいをつなげる 手をもうち
4:06		片足で動歩跳ぶ 片足で立ったままする 三輪車をこぐ	一人で外の支度が できる
4:00			ほねて駆除なルールの ゲームができる
3:06		砂や土で大きなもの を作り名前につける でんぐり返りをする	まねて駆除なルールの ゲームができる
3:00			お風呂場で水遊びをする ひじりで足を洗う 手を洗って拭く
2:00		片足で立ったままする 三輪車をこぐ	手を洗って拭く
1:06		走る	自分の物と他人の物の 区別ができる
1:03		立って歩く	年齢の子と会話を高め し、年少の子と会話を高め る
1:00~ 0:50		走る	高い、低いが分かる 手を高く振る
0:50~ 0:40		立って歩く	手を高く振る
0:40~ 0:30		走る	手を高く振る
0:30~ 0:20		立って歩く	手を高く振る
0:20~ 0:10		走る	手を高く振る
0:10~ 0:05		立って歩く	手を高く振る
0:05~ 0:01		走る	手を高く振る
0:01~			手を高く振る
年：月	器質的 精神的 社会的 運動的 認知的 言語的 個性的	健腹と体操課題 表現と手形操縦 健腹と生活習慣 人間関係とコミュニケーション 運動の発達	表現と手形操縦 健腹と生活習慣 人間関係とコミュニケーション 社会性の発達 言語・認知の発達 環境と対応

発達の全体像をとらえるためのチェックリスト

部分拡大図

年齢	1:00 0.10~0.11 0.9~0.10 0.8~0.9 0.7~0.8 0:06 0.4~0.5 0.3~0.4 0.2~0.3 0.1~0.2 0.0~0.1	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解	年齢 1ヶ月と手指機能 表現と生活習慣 言葉と対話 環境と理解
1:00	伝い歩きをする 四つ這いで移動する。 物につかまって立っている 一人で座って遊ぶ 寝返りや腹這いをする 横向きに寝返りをする 首がすわる あおむけにして体をおこした時頭を保つ 腹ばいで頭を少しあげる あおむけで頭を左右に首の向きを変える	おもちゃの車を手で走らせる ピンのふたを開けたり閉めたりする おもちゃのたいこをたたく 親指と人差し指でつかもうとする 手を出して物をつかむ ガラガラを振る おもちゃを揺るぎ手を絡み合わせる自分の手を見つめる 頬の触れたものを取ろうとして手を動かす 手を口に持つてしゃぶる 手に触れたものを揺るぎ首の向きを変える	コップを自分で持つて飲む 泣かずに要求を示す コップ等を両手で口に持っていく 顔をふこうとすると嫌がる 自分で食べ物を持ってで食べる おもちゃを見ると動きが活発になる さじから飲むことができる 顔に布をかけられて不快を示す 満腹になると乳首を舌で押し出したり顔をそむけたりする 空腹時に抱くと顔を乳の方に向ける	人見知りをする 身振りを真似する(オツムテソテン等) おもちゃを取られると不快を示す 鏡を見て笑いかけたり話しかけたりする 人を見ると笑いかける 人の顔を見ると笑いかける あやされると声を出して笑う 人の声がする方に向く(アーウー) 人の顔をじいっと見つめる 泣いている時抱き上げるとしすまる	音声を真似ようとする さかんにおしゃべりをする(囁語) ダ・タ・チャ等の音声が出る マ・バ・バなどの音声が出る 人に向かって声をだす キャーキャーいう 声を出して笑う 泣かずに声を出す(アーウー) いろいろな泣き声を出します 元気な声で泣く	「バイバイ」「さようなら」の言葉に反応する 「いけません」と言うとちょっと手を引っ込める 「バイバイ」「にぎにぎ」の動作をまねる ジェスチャーを見てその意味を理解する 身近な者の声を聞き分け反応する 母の声と他の声を聞き分ける 音のする方を向く 人の声でしすまる 母親の声を聞き分ける 大きな音に反応する			
0.10~0.11									
0.9~0.10									
0.8~0.9									
0.7~0.8									
0:06									
0.4~0.5									
0.3~0.4									
0.2~0.3									
0.1~0.2									
0.0~0.1									
年：月	健康と身体運動 表現と手指機能 環境と理解	表現と手指機能	養護と生活習慣	人間関係とコミュニケーション	言葉と対話	環境と理解			
	運動の発達		社会性の発達		言語・認知の発達				

平成25年度 保育課程 チェックシート (平成25年3月改訂)

	教育							
	命譲	情緒の安定	健康(運動)	人間関係	環境	言葉(話す)	言葉(理解)	表現
おおむね 6ヶ月未満	・ミルクを飲むと喜ぶ ・食べ物に興味を持つ ・徐々に離乳食を食べ始める ・1日2、3回のリズムでゆっくり食べる ・汚れた部分をきれいにしてもうと喜ぶ	・快不快をはっきり示す 【保守式 2ヶ月】 ・親しい大人に抱かれると身をゆだねる 【保守式 3ヶ月】 ・手をな人を見るときも喜ぶ 【選択式 9ヶ月】	・うつ伏せて頭をあげる 【選択式 2ヶ月】 ・落っこちないなどの運動をする 【選択式 5ヶ月】 ・手を伸ばしたり握ったりする 【選択式 9ヶ月】	・大人の顔をじっと見つめる 【選択式 2ヶ月】 ・身近な人の顔や声がわかる 【選択式 3ヶ月】 ・身に着いた自分の顔に反応する 【選択式 9ヶ月】	・手を口に持っていく 【選択式 2ヶ月】 ・目の前の物をつかみもとする	・保育者に話しかけられる「アーッ」 「ウー」と声がかる ・あやされるときに出して笑う ・話しかける方を見る	・他の戸と他の人の戸を聞き分ける ・泣く聲かが聞こえるとわかる ・人の声で静かになる ・人の声に反応する ・唇を開いて! かーがーと音を出せる	・音のする方向を向く ・選擇する ・玩具を握って握り出す ・あやされると手、足を動かして喜ぶ
おおむね 6ヶ月から 1歳未満	・手づかみで物を食べる 【選択式 9ヶ月】 ・コップでのぞむ 【選択式 1ヶ月】 ・離乳食が本筋に完了し初期のお皿食を食べ始めめる 【選択式 10ヶ月～1歳3ヶ月】 ・安心して栄養活動をする ・手や指先を使って物をつかむ ・積み木を持ち合わせる	・見慣れた人を真似て「ニギニギ」や「ハイハイ」をする 【選択式 10ヶ月】 ・人見知りが楽しくなる 【選択式 11ヶ月】 ・身に着いた自分の顔に反応する 【保守式 10ヶ月～1歳3ヶ月】 ・手や指先を使って物をつかむ ・積み木を持ち合わせる	・玩具をもいか返す 【選択式 9ヶ月】 ・ピンの聲をあけたりしゃべりする 【選択式 10ヶ月】 ・身近と一緒にいたり、同じことをして遊んだりすること楽しむ ・親しい人に追つたりキヨキヨと揃したりする	・保育者と一緒に遊ぶことを喜ぶ ・身近な色彩の物、身近な物の絵本を見る	・きれいな色彩の物、身近な物の絵本を見る	・囁きや「ママ」「ミマ」などの一語が出る ・音声をまねようとする 【選択式 11ヶ月】 ・指さしの仕事が喰れ始める	・他の話し方で情報を聞くを分ける 【選択式 7ヶ月】 ・いいけません! と思うと、ちょっと手をひこめる 【選択式 10ヶ月】 ・「ハイハイ! やさよ! やさよ!」のことばに反応する 【選択式 11ヶ月】	・歌や音楽に合わせて体をからす ・つまむ、たたく、ひっぱるなど指や手で遊ぶ ・簡単な手遊びやドライブをねる
1歳 【選択式】	・さじで食べようとする	・一緒に進んでて要求し、相手になる ・喜ぶ	・座った位置から立ちあがる	・父や母の後追いをする ・拍手をまわる	・物をひっさげたりする ・拍手をまわる	・言葉を1～2語、正しくまるる	・要求を理解する	・なくり書きをする
おおむね 1歳から 2歳未満	・こほしながらもスプーンやフォークを使つて食べる ・保育者の顔で安心して眠つたら、休息をとつたりする ・オマジに座りタマゴが合うと休まる ・身の回りのことに喜びを示し、自分でやつととする	・泣いたら囁き聲を発したりして保育士に甘える ・身の回りのことを自分でやろうとする ・見慣れない保育者が見知らぬ場所には近づかない	・歩く、走るなどの運動遊びをする 【選択式 1歳9ヶ月】 ・コップからコップへ水をうつす 【選択式 6ヶ月】 ・一人で二段ごとに足をそろえながら階段をあがる 【選択式 1歳9ヶ月】	・身近な人の仕事や行動を模倣する 【選択式 1歳9ヶ月】 ・自分より小さい子がわかる ・身の回りのことに喜びを示し、自分でやつととする	・近くで座る友達や大人に気付く、近づく ・戸外遊びをする ・一人遊びをする ・物の出し入れをする(隠す)	・囁き言える 【選択式 1歳4ヶ月】 ・絵本を見て一つのもの名前を言う 【選択式 6ヶ月】 ・絵本を見て三つのもの名前を言う 【選択式 9ヶ月】 ・目、口、耳、手、足、脚を指示する 【選択式 1歳9ヶ月】	・大人の言うことがわかる ・簡単な命令を実行する ・絵本を読んでもいたがる ・手元にあるもの色々のものに見立てて遊ぶ	・音楽に合わせて体を動かしたり、簡単な手遊びをしたりする ・つまむ、たたく、いじる、転がすなど、手や指を使って遊ぶ ・手元にあるもの色々のものに見立てて遊ぶ
おおむね2歳	・一日の中で食事や運動などのリズムが整つて精神的に過ごす ・身の回りのことを自分でやろうとする ・怖いものに対して、逃げる、取り除こうとするなどの行動が出来る	・安心できる保育者の顔で好きな遊びができる ・自分の表現で保育士に甘えたり渴求を示したりする ・見慣れるある人の語りかけにより喜ぶ感動が出来る	・歩る、押す、ひっかけるなど全身を使った遊びができる ・ボールを前にける【選択式 2歳6ヶ月】 ・両足でびくんびくん跳ぶ 【選択式 2歳3ヶ月】 ・競争などに両手でがら下げる 【選択式 2歳3ヶ月】	・友達の名前がわかりりんたりできる ・友達のお世話をしたがる ・保育者と一緒に玩具の片づけをする ・自分で出来ることは自分でしようとする	・自分の物と他の人の物との区別がつく IS→H社会生活能力検査第2歳9ヶ月～3歳3ヶ月	・二語文を話す 【選択式 2歳6ヶ月】 ・絵本を見ながら囁き声のある言葉を模倣して言える ・自分の名前を言える 【選択式 2歳6ヶ月】	・もうひとつリモモしそうがわかる 【選択式 2歳6ヶ月】 ・大きいのがわかる 【選択式 2歳6ヶ月】 ・長い、短いがわかる 【選択式 2歳6ヶ月】	・水、砂、土など自然の素材を使って遊ぶ ・保育士と一緒に歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりする ・見立てて物を使って遊ぶ ・壁かのりをしたとして遊ぶ
おおむね3歳	・体の運営を訴えることができる ・一人でパンやオムツの着脱ができる IS→H社会生活能力検査2歳6ヶ月～3歳3ヶ月	・自分の出来事を訴える ・身の回りの人に喜んで貰うための仕事や生活を始めた ・おだちとの競り合いが増えている	・ぐらりと立てる【選択式 3歳4ヶ月】 ・ボケをはめる 【選択式 3歳4ヶ月】 ・輪あそび両足をそろえて前に立てる 【選択式 3歳6ヶ月】	・「こうしていい!」と許可を求める 【選択式 3歳4ヶ月】 ・ごっこ遊びを楽しむ 【選択式 3歳6ヶ月】 ・遊具、道具を貸したり、隣に使ったりする 【選択式 3歳6ヶ月】	・自分の物と他の人の物との区別がはっきりつく ・物の大切に扱おうとする ・天井の高いところへ ・簡単な決まり事を守る ・屋外の決められた場所で遊ぶ 【発達チェック 3歳6ヶ月】	・歩歩や逃げなど日常生活での言葉のやりとりが自由なくてまる ・なぜ? どうして? などの質問を盛んにする ・簡単な言葉ができる	・手、青、黄、緑がわかる 【選択式 3歳6ヶ月】 ・高い、低いがわかる 【選択式 3歳6ヶ月】 ・数の数が分かる今まで 【選択式 3歳6ヶ月】 ・物を使って四角をしたり、お山をつくったりして遊ぶ	・動物や乗り物などの動きを模倣する ・自分の好きなものになりきって遊ぶ(ピーロー、家族等) ・山を使って四角をしたり、お山をつくったりして遊ぶ
おおむね4歳	・自分が体調の変化に気づき、体の異常を感じる ・苦手なものでも食べる ・身近な生活の中での危険な事柄に気づく ・衣服脱着を自分でする ・鼻をかんだり頭や手を洗ったりして体に付ける	・他人を気遣うことができる ・はすかしさがでてくる	・片足でけんけんをしてあそぶ 【保守式 4歳6ヶ月】 ・ブランコに立のりしてこく 【選択式 4歳6ヶ月】 ・タオルや布巾をしまることができる 【発達チェック 4歳10ヶ月】	・保育者の言うことやあ達の意見を聞く ・自分のしたいこと、してほしいことをはっきり言う ・シャンパンの開け口だけがわかる 【選択式 4歳10ヶ月】	・色々な用具や道具に興味を持ち、大切に扱う ・身近な人の仕事や生活に興味を持ち、興味をもつて取り入れる ・季節や天候による遊びの違いを知る ・信号を見てきちんと直道を走ることができる	・身の回りの出来事や自分の感いを言葉にして言う ・文字、数字に興味を持ち、読む ・日常生活中必要な操作をする	・見慣れたものの用途を言葉がわかる 【発達チェック 4歳6ヶ月】 ・数の数が分かる今まで 【選択式 4歳6ヶ月】 ・左右がわかる 【選択式 4歳6ヶ月】	・保育者やお達と一緒に歌ったり体を動かしたりする ・折り紙で簡単な物を折る事が出来る(飛行機・コップ等) ・リズムに合わせて楽器を鳴らしたりする ・リズムに合わせてスキップする
おおむね5歳	・体調が悪い時の過ごし方がわかる ・生活の中での危険な事柄や場所を覚える ・感情のコントロールができる ・基本的生活習慣が身につく	・言葉の判断がつく ・感情のコントロールができる ・自分の気持ちや考え方をちゃんと表す	・シャンブルジムに登ることができ 【選択式 5歳6ヶ月】 ・靴の前回りができる ・金庫を開けることができる ・ケンケンができる	・カバンの整理、自分たちで解決していくこととする ・自分たちであまり事をやって遊ぶ ・グループ活動を喜ぶ	・身近な物を整理して大切に使う ・身近な運動器具の世話をする ・公共の場所は清潔や、マナーがわかる ・積極的に外で遊ぶ ・様々な運動器具をつかって遊ぶ	・身の回りの出来事や自分の感いを保育者やお達に伝える ・身近な物を整理して大切に使う ・身近な運動器具の世話をする ・公共の場所は清潔や、マナーがわかる ・積極的に外で遊ぶ ・様々な運動器具をつかって遊ぶ	・昨日、今日、明日の流れがわかる ・宇宙と各星の名前がつく ・身近とかなきたをつけて、どちらか選んだか教えて決める【選択式 5歳6ヶ月】 ・生活に必要な簡単な文字や記号が分かる	・持った物や用具を利用して製作をする ・リズムの違うのがわかり、それぞれの曲に合わせて歌ったり踊ったりする ・今までの簡単な地図を作る ・地図圖を描く
おおむね6歳	・一人で階次ができる 【保守式 6歳6ヶ月】 ・疲れたら自分で安心できる場所へ行き、休息をとる ・事故防止に関する知識を持ち、危険な事柄に対する準備がわかる ・体と物の関係が分かり、何でも調べようとすると ・清潔と気候の予防の関係が分かり、身の回り清潔にする ・自分が他の人の服装について、保育士に教わる ・身の回りのことは自分でする。	・予想、見通しを立てて自信を持って行動する ・友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言つたりする ・大声で声を出して泣くことを我慢する	・後ろ歩きができる ・ボールを上手に投げれる ・速度を覚えて走る ・積極的に戸外で様々な運動をする ・様々な運動器具や道具を使い、急速に工夫して、遊びを発展させる ・自分の意見を投入したりする ・共同の道具や用具を組み合って使う	・年下の子もまじえ、一緒に楽しむ ・安全に声をつけて遊ぶ ・花園を作れる工程が分かり、一人で作ることができる ・友達数人でリレー遊びができる 【選択式 6歳6ヶ月】 ・小さい子が無い子の面倒を見る 【選択式 6歳6ヶ月】 ・友達との遊びがの中では、決まりがあることの大切さに気がつく ・友達との遊びの中で、決まりがあることの大切さに気がつく ・身近な人の物、共有の物が区別できるようにすることができる	・色々な行事を楽しむ ・安全に声をつけて遊ぶ ・花園を作れる工程が分かり、一人で作ることができる ・地図や地図帳を見ることに興味を持つ 【選択式 6歳6ヶ月】 ・信号を見て直し直す 【選択式 6歳6ヶ月】 ・身近との事柄や事象について話したり、工夫したりしておもつことを、相手にわかるように話す 【選択式 6歳6ヶ月】 ・身近な物の声や行動が興味や関心を持ち、考え方たり、工夫したりしておもつことを、相手にわかるように話す	・「ありがとうございます!」などができる ・口がまわるする ・民謡や賛美、福音ができる ・たずねられる、保育園や学校に行く直道を説明できる	・昨日、曜日がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】 ・前後、左右、遠近などの位置の違いがわかる ・音の高低を幅を分ける 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「はらがなをほんと全部読む 【選択式 6歳6ヶ月】 ・バランスなど回数を数えて、直道を走る 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「うきよとくをつくる」という言葉がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「おもてなし」と「おもてなし」という言葉がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「おもてなし」と「おもてなし」という言葉がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】	・道具や素材の扱い方を覚え、使い分けができる ・持った物に興味を持ち、使い分けができる ・音の高低を幅を分ける ・音の高低を幅を分ける ・「はらがなをほんと全部読む 【選択式 6歳6ヶ月】 ・バランスなど回数を数えて、直道を走る 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「うきよとくをつくる」という言葉がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「おもてなし」と「おもてなし」という言葉がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】 ・「おもてなし」と「おもてなし」という言葉がわかる 【選択式 6歳6ヶ月】

自閉スペクトラム症

Autism Spectrum Disorder (ASD)

自閉症と連続した自閉圏の障害でこれまで、
広汎性発達障害というように言われていた。

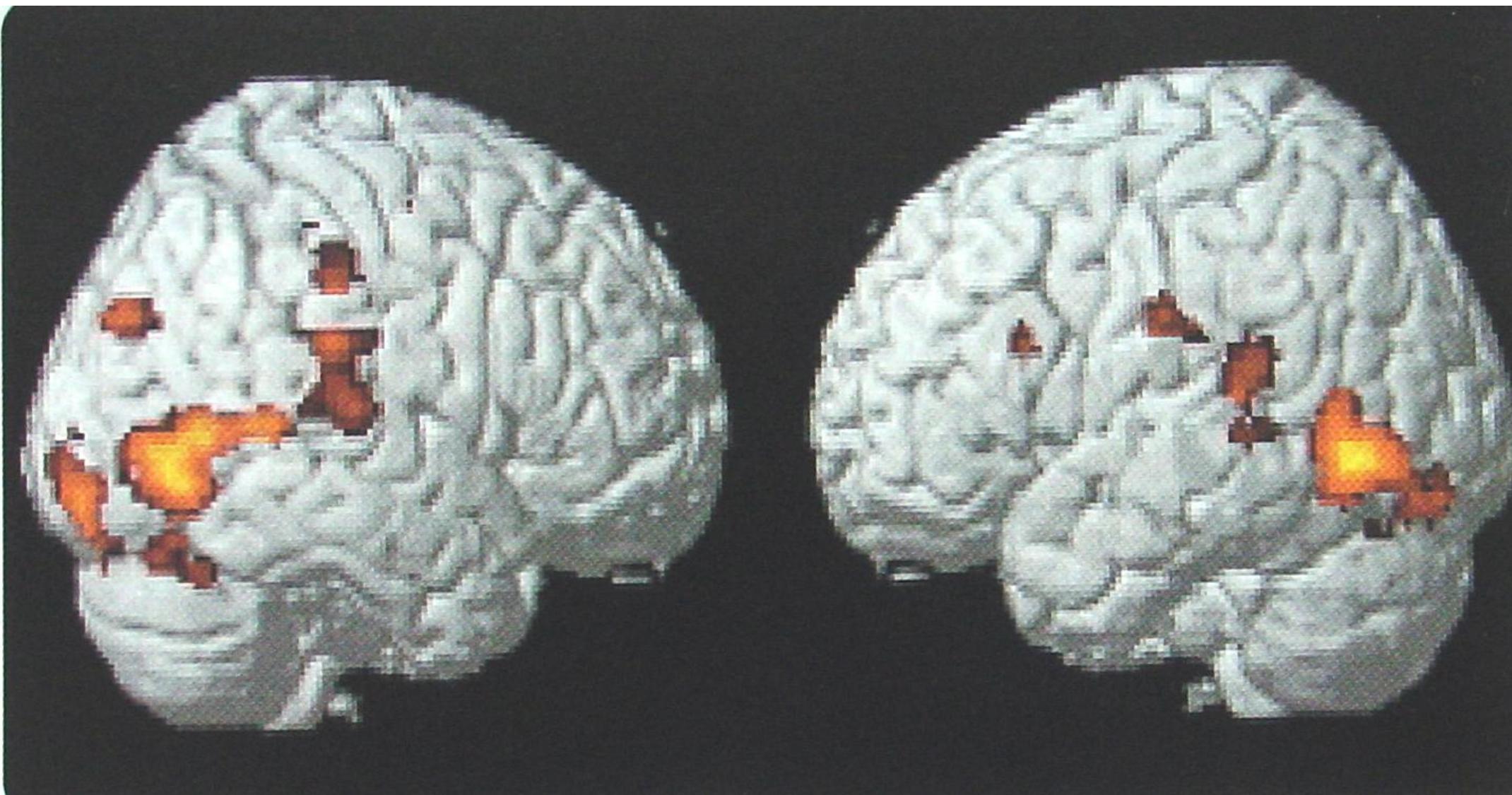
育て方の問題ではなく、中枢神経系
(脳) の機能障害といわれている。

3つの特徴

- 社会性・対人関係の障害（場面に応じた適切な行動がとれない）
- コミュニケーションの障害
- 想像性あるいはこだわりの障害

五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）
にさまざまな感覚にかたよりがある

自閉症の脳のfMRI



自閉スペクトラム症（ASD）の子どもの特性及び具体例①

① 社会性の特性

- * 視線が合わない。指さししない * 呼んでも振り向かない
- * 回りの人に関心を示さずマイペースで友達関係をうまく作ることができない
- * ジェスチャー等で意思を伝えようとしない * 迷い子になりやすい
- * 人に合わせることがにがてで協力して遊ぶことができない
- * 同年齢の子どもと波長が合わずごっこ遊びや見立て遊びがない
- * 回りの人が困るようなことでも平氣でする など

② コミュニケーションの特性

- * ことばが遅い。聞かれたことに答えずオウム返しで話す
- * 言いたいことを一方的に話し、会話にならない
- * 他の人に自分の思いや考えをうまく伝えることができない
- * 話すほどには理解おらず、話し方が回りくどくて細かいところにこだわる
- * 話が飛びやすく抑揚を付けて話すことができない など

③ 想像性あるいはこだわりの特性

- * 同じ遊びを繰り返し、反復的な行動をよくする * 流水・回転するものが好き
- * 特定の物や習慣、方法、手順にこだわる。行動パターンが決まっている
- * 人が興味を持たないことに異常な関心を示す * 細部へのこだわり
- * 自分だけの空想の世界で遊ぶ
- * 車や電車、時刻表など特定の分野のことに対して詳しい
- * 環境の変化や予定の変更などにうまく対応できない

④からだの感覚の特性（感覚過敏と鈍麻）

五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）にさまざまな感覚のかたよりがある

- * 手をひらひらさせるなどの常動行動がある
- * 極端の偏食で白いご飯やスナック菓子しか食べず好き嫌いが激しい
- * 光をまぶしがる。キラキラしたものを探す
- * 音、匂い、色、味、触覚に対して感覚が通常よりも鋭い、または鈍い
- * 動作がぎこちなく、不器用である
- * 長く爪先立ちをするなど独特な姿勢をする
- * 得意なことと不得意なことの差が大きい
- * 独特な上目遣いをする
- * 飛び跳ねながらくるくる回る
- * 特定の服の生地が苦手など
- * パニックを起こす

自閉スペクトラム症の チェックシート

例文のどれか一つでも「ほぼ毎日」「一日数回」があれば左の項目はある→○
こちらは幾つ以上という基準はありません。

対人面とこだわりの状況のチェックシート

○年齢・性別 [歳月][男・女]
 ○対象児氏名 []
 ○記入者氏名・対象児との関係 []
 ○記入年月日 []

	不適応の状態	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
人への社会的反応やかわ形成の困難さ	目と目で会話をする、身振りを使うなど非言語的な行動が少ない 友だちと仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友だらけをうまく避けない 友だちのそばにはいるが、一人で遊んでいる 仲のよい友だちがない ゲームをする時仲間と協力することに考えが及ばない いろいろなことを話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない 共感性が乏しい 周りの人気が困惑するようなことも平氣でしてしまう					
	話し言葉の遅れがあり、身振りなどで補おうとする 言葉を組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、聞合いで取れなかったりすることがある 「ちなみに」「いわゆる」「ようするに」「つまり」などの言葉を繰り返し使う その年齢に相応した変化に富んだ自発的なごっこ遊びや社会性のあるものまね遊びができる 大人びている、ませている					
	みんなから「〇〇名人」(オタク的)と思われている 例: 国旗名人 他の子どもが興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」をもっている 空想の世界(ファンタジー)に遊ぶことがあり、現実との切り替えが難しい場合がある 特定の分野の知識を蓄えて得意がある とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある					
	特定の物にこだわりがある ある行動や考え方によくこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある 自分なりの独特な日課や手順があり変更を嫌がる 意図的でなく、頭や体を動かすことがある 例: 手や指をぱたぱたさせる					
	独特な声で話すことがある 独特な目つきをすることがある 独特な表情をしていることがある 独特な姿勢をしていることがある 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある					
	全般的なこと	社会生活や園生活に不適応が認められる				

自閉スペクトラム症の子どもへのかかわり方のポイント①

落ち着ける環境の用意

見えるものや聞こえるものなど、外界からの刺激すべてに反応しがち。家具や飾り物などをなるべく取り除いた、静かな落ちついたスペースを確保する。

ことばかけは統一して簡潔に

話しかけるときは、ゆっくりと短いことばで、いろいろな表現を使わないようにする。同じ指示を何度も行う場合は、その指示の出し方を統一する。

活動の流れを視覚的に伝える

予定している活動を、絵や写真を使って一覧表にするなど、目で見てわかりやすく伝えることで、見通しがもて、情緒が安定する。

活動の区切りを明確に

それぞれの活動の始まりと終わりを明確にする。特に、「いつ終わりになるか」を、わかりやすく伝える。視覚的にイメージできる伝え方をする。

楽しく取り組める工夫を

好きなことや興味のあることを課題のテーマにしたり、スマールステップでわかりやすく進めるなど、取り組みやすくする。満足感を実感できるような課題の設定を行う。

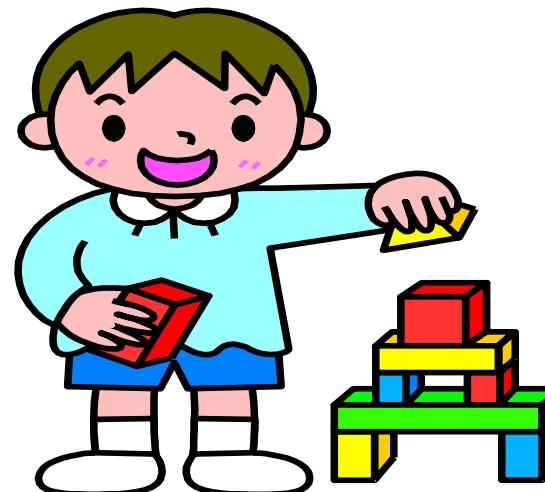
自閉スペクトラム症の子どもへのかかわり方のポイント②

パニックには冷静に対応

パニックに振り回されないようにする。
刺激の少ない静かな部屋で落ち着くまで待つ。
「叱らないけど譲らない」という一貫した姿勢が大切。

興味の幅を広げる手助けを

その子が好きな遊びから、他の遊びにも誘ってみる。
いつもしている遊びを減らすのではなく、他のことにも
楽しみが拡がるような支援をする。



注意欠如多動症（ADHD）とは

注意

欠如

多動性

障害

Attention Deficit Hyperactivity Disorder

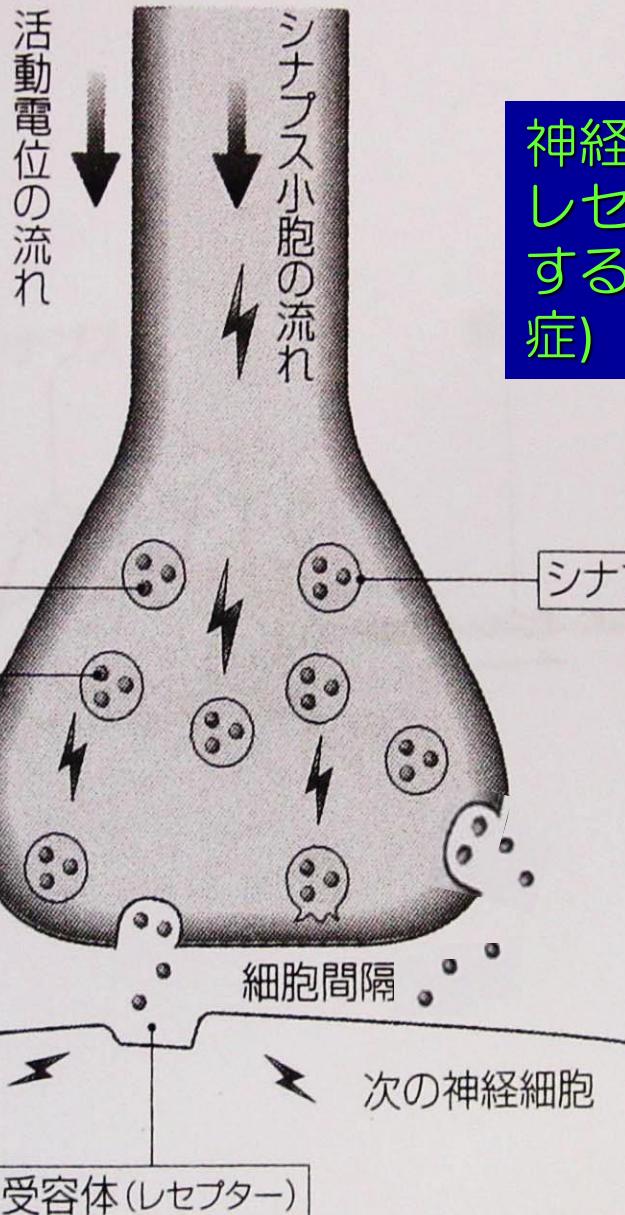
ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな**注意力**、
及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）



12歳以前に現れ、その状態が継続し、**中枢神経系の要因**による機能不全がある。

シナプスの情報伝達



神経伝達物質の放出異常や
レセプターの異常で病気が発生
する(ADHD, 郁病、重症筋無力
症)

約100の神経伝達物質
が知られている
アセチルコリン、ドーパミン、
ノルアドレナリンなど

薬の利用 ・コンサータ・ストラテラ

注意欠如多動症（A D H D）の例

不注意型

- ・気が散りやすく、話が聞けない
- ・注意を払えない。集中できない
- ・いろいろな刺激に反応しやすい
- ・事故に遭いやすく怪我が多い
- ・物をよく無くして忘れ物が多い
- ・片付けができない
- ・よく物忘れをする

これって結構誰にでも
当てはまるんじゃないの？
自分もADHDなの？

…と思うのは、
大間違い
これらが常に続くのです

自己コントロールできない

多動・衝動型

- ・思い通りにならぬと急に興奮して怒り出す
- ・パニックになる
- ・ルールや順番が守れない
- ・自分中心で面倒なことは嫌う
- ・危険なことが好きで危ないことをする
- ・興味のないことはしないで立ち歩く
- ・相手の立場を考えずに一方的にしゃべりる
- ・相手を傷つけるようなことを言ってしまう等

注意欠如多動症の子どものチェックリスト

不適応の状態を把握するチェックシート
No.1

○対象児氏名	○年齢・性別	[歳 月] [男・女]				
○記入者氏名・対象児との関係						
○記入年月日	年	月	日			
1. 不注意						
不適応の状態	不適応の例	なし に	たま に	時々	ほぼ 毎日	一日 数回
(1) 注意を払えない	<ul style="list-style-type: none"> 集団や個別の活動で、細かく注意を払えない 何度も注意しても同じミスを繰り返す 注意すべきところで丁寧に行わない 					
(2) 集中力を持続できない	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことには極端に没頭するが、興味のないことには注意集中時間がごく短い 根気がなく努力している姿が見られない 					
(3) 話を聞いていない	<ul style="list-style-type: none"> 話しかけても聞いていない 集団の中で話を正確に聞けない 違うことをして話を聞いていない 					
(4) 指示に従えない	<ul style="list-style-type: none"> 指示は理解できるのに、従えない 言われたとおりのことをしない 掃除などをさぼり注意される 					
(5) 計画性がない	<ul style="list-style-type: none"> 計画を立てるのが苦手 無理な計画を立てて、やり遂げられない 時間配分ができない 					
(6) 課題を避ける	<ul style="list-style-type: none"> 工作等の課題を避ける、嫌う 難しい課題はすぐにあきらめてしまい 給食の後片付けなどの決まった課題を嫌がる 					
(7) ものをなくす	<ul style="list-style-type: none"> 宿題・鉛筆・本・傘などをなくす 何をどこに置いたかわからなくなる 探している物が側にあっても目に入らない 					
(8) 気が散る	<ul style="list-style-type: none"> ちょっとした物音でもすぐに気が散る 話し声や騒音等に過剰に敏感である 「暑い・寒い・かゆい」等とすぐに訴える 					
(9) 物忘れをする	<ul style="list-style-type: none"> 歯磨きや手洗い等の毎日め日課でも忘れる 園であつたことや直前のことを忘れる 翌日の準備物を覚えていない 					

不適応の状態を把握するチェックシート
No.2

2. 多動性(過活動)		不適応の状態	不適応の例	なし に	たま に	時々	ほぼ 毎日	一日 数回
(1)	そわそわしている	<ul style="list-style-type: none"> 座っていて手足を動かす。身体をクネクネさせる 髪いじり・爪かみ・指しやぶり等がある 						
(2)	離席する	<ul style="list-style-type: none"> 育保育や食事中にすぐに席を離れる 教室から飛び出してどこかに行ってしまう 						
(3)	興奮する	<ul style="list-style-type: none"> 異様にはしゃぐことが多い 集会の場で走り回る、高いところによじ登ったり、飛び降りたりする 						
(4)	騒がしい	<ul style="list-style-type: none"> 遊んでいても騒がしく周りに迷惑をかける 静かに読書等ができない 見知らぬ人に声をかけて不快感を与える 						
(5)	休みなく動き回る	<ul style="list-style-type: none"> じっとしていない 予想のつかないことをします 目的の場所にいないことが多い 						
(6)	必要以上のお喋り	<ul style="list-style-type: none"> 遠慮すべきところでも、自分のベースで不適切なほどに過剰に喋る。 教師の説明の途中や友達の発言中も喋る 						

3. 衝動性

不適応状態	不適応の例	なし に	たま に	時々	ほぼ 毎日	一日 数回
(1) 話しを最後まで聞けない	<ul style="list-style-type: none"> 話が終わらないうちに、思いついたことを答えてしまう。 待てずに自分の聞きたいことをすぐに聞く 					
(2) 順番を待てない	<ul style="list-style-type: none"> 列に並んで待てない。いつも一番になりたがり、反則をしてでも勝とうとする ルールを守れず、周りとのトラブルが多い 					
(3) 協調性が乏しい	<ul style="list-style-type: none"> 他人を阻止する、邪魔をする 自分の好きな遊びしかしない 思い通りにならないと癇癪を起す、拗ねる。 					

チェック後の見方	活用方法
○表中の「ほぼ毎日」「一日数回」の部分にチェックがついた項目は要注意項目であり、適切な支援を進める必要がある。	○不適応状態は、DSM-IVの診断基準と同じ内容にしているので、専門医への受診相談機関に訪れる際にチェックして持参すると、その状態が短時間で伝達できる。
○「不注意」「多動性一衝動性」のそれぞれの「ほぼ毎日」「一日数回」の部分に6つ以上チェックがつく場合は、ADHDの不適応状態に近いと判断して、支援方法を見直すとともに、一度専門機関に相談することが望ましい。	○支援方法の効果を確かめるために、1ヶ月に一度程度の定期的なチェックを行う。特に、特別な支援や服薬を開始したときは、1週間に1度程度のチェックもその変容の記録と分析につながる。
○特別な支援や服薬開始後のチェックが、悪化(ポイントが右側に移行)した場合は、支援を改善、医師への相談が必要である。	○「集団の中と個別の指導での状態の比較」や「各教科ごとの状態の比較」等を行い、不適応が起こる原因分析やより効果的な支援方法を探ることに活用する。

注意欠如多動症（ADHD）の子どもの特性及び具体例

① 注意性

- * 注意を払えない。注視できない
- * 話す人を見て話を聞けない
- * 同じことを失敗してよく注意される
- * ものごとに集中できず気が散りやすい
- * いったん始めたことを最後までやりきれない。すぐに飽きてしまう
- * 指示を理解して従うことができない
- * 片付けができない
- * 置いたところを忘れ探し物を見つけられない
- * よく忘れ物をする など

② 多動性

- * じっとしておることができない
- * いつも身体をうごかして落ち着きがない
- * 部屋からふらふら出て行く。静かに座っておれない。
- * 異常にはしゃいだり興奮したりする
- * 平気で高いところに昇ったり飛び降りたりする
- * 話を最後まで聞けずに途中で答える
- * 反則をしてでも勝とうとする
- * 一番になりたがる。譲り合いながら遊べない
- * 人の遊びを邪魔する

注意欠如多動症（ADHD）の子どもの特性及び具体例

③ 衝動性

- * 突然飛び出したり物を投げたりする * 急に蹴ったり叩いたりする
- * 気に入らないと暴力を振るったり噛みついたりする
- * 我慢ができない * 順番が待てない * すぐに癇癱を起こす
- * 危険なことを平気でする
- * 急にしゃべり出す
- * 食べ物を待てずに食べてしまう など

④ 友達関係

- * すぐにぶつかったり、喧嘩をしたりする
- * 他人の邪魔をする
- * 他人に命令ばかりする
- * 集団の遊びに参加しない
- * 自分が悪くても謝れない
- * 人と反対のことを行なう

ADHDの子どもへのかかわり方のポイント①

慌てない・焦らない

常に一呼吸おき、おおらかな心で子どもに向き合う。

視覚に訴える

絵カードや写真などを利用して視覚に訴えながら伝える。

見通しがもてるように

予定を急に変更されると切り替えがきかないでの、その日のスケジュールなどを絵カードなどで視覚的に示して見通しがもてるように伝え方を工夫する。

思い出し、気づかせること
ばかり

ゲームの前に「お友だちにボールを取られたらどうする?」と問い合わせてルールに気づかせるなど、事前に想定される混乱をなるべくなくすような工夫をする。

漠然とした表現は避ける

曖昧な表現では理解が困難である。「部屋を片づけて」ではなく、「本を棚にしまって」などと具体的なことばで伝え、できたらその場ですぐに褒める。

刺激を少なく

気が散りやすいので、保育室に仕切りのあるスペースを作り、いろいろなものが目に入らないように環境を工夫する。保育室内の飾りも過剰にならないようにする。

ADHDの子どもへのかかわり方のポイント②

できることから
スモールステップで

興味関心のあることできることから始める。できることをより良くできるよう
に課題を小分けにするとやる気が出る。

成功体験を増やす

何かができたり、好ましい行動をしたときは、その場ですぐに褒める。「でき
た」という体験の積み重ねで、自信がつく。

くどくどと叱責しない

叱責により信頼関係が崩れ、本人は自信を失ってしまうこともあるので、
叱った後にはよくなつたことを必ず認めて褒めるようにする。また、叱る時は
短く具体的に伝える。

褒めるときはみんな
の前で、叱るときは
個人的に

一人一人の子どもに対して周囲の子どもにマイナスイメー
ジがつくことを防ぎ、子どもの自己評価を下げずにする。

子どもの立場を重視した支援の原則

SPELLへの取り組み(イギリス自閉症協会)

- ①Structure (構造化)・わかりやすく
- ②Positive(肯定的)・あるがままに
- ③Empathy(共感)・ともに生きる
- ④ Low arousal(興奮させない)・安らかに
- ⑤Links(連携)・ともどもに

特別な支援が必要な子どもへの対応

～支援に大切な 3 S + 1 S～

- ・スタート・・・○から○への支援
- ・ステップ・・・できるだけ細かく
スモールステップで
- ・スピード・・・ゆっくり子どものペースで
- ・スマイル・・・やる気の源

